



TITLE:

## 消費ニ關スル學說ノ發達(二)

AUTHOR(S):

瀧本, 誠一

---

CITATION:

瀧本, 誠一. 消費ニ關スル學說ノ發達(二). 經濟論叢 1917, 4(2): 203-210

ISSUE DATE:

1917-02-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127161>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

# 經濟論叢

號二第

卷四第

行發日一月二年六正大

## 論說

『一經濟學者ノ第一思想』ヲ讀ム……………法學博士 河上 肇  
官業問題ニ就キテ(二)……………法學博士 神戶 正雄  
體質廢頽問題(三)……………法學博士 財部 靜治  
經濟心理學ノ組織的研究(二)……………米田 庄太郎  
消費ニ關スル學說ノ發達(二)……………瀧本 誠一

## 時事問題

減債基金論……………法學博士 小川 郷太郎  
日支經濟關係ノ真相……………法學博士 戶田 海市  
關西商業會議所聯合經濟調查會事業概況……………法學博士 神戶 正雄

## 雜錄

經濟雜話(八)……………法學博士 田島 錦治  
中世ニ於ケル賣買ノ擔保……………文學博士 三浦 周行  
不換紙幣ノ價格ニ付テ河上博士ニ答フ……………法學博士 戶田 海市  
米ノ卸賣價格ト小賣價格……………法學士 河田 嗣郎  
植民國トシテノ丁抹ノ末路……………山本 美越乃

## 消費ニ關スル學說ノ發達(二)

瀧 本 誠 一

あだむ、すみす(一七二三—一七九〇)ハ消費論ニ於テハ頗フル曖昧ノ地位ニ立タルモノデアル、  
世にむす、ばなあ曾テ之ヲ評シ「すみすノ富國論中ニハ不幸ニシテ消費ニ關スル一ノ完全ナル學  
說ナシ」ト云ヘルコトアリシガ成ル程完全ナル學說ナキハ勿論ノコトデアル、すみすハ價值論ニ於  
テハ其ノ他ノ重要問題ト同シク多ク「ふゐしをくらつと」ノ思想ヲ繼承シテ實用價值ト交換價值  
トノ區別ヲ立テタルモ二者ノ相互ノ關聯ヲ説明スルコトヲ爲サズ、乃チ「ふゐしをくらつと」ト共  
ニ肝心ナル實用價值ノ根本思想ニ論及セズンテ全ク之ヲ富國論ノ外ニ放擲シタルガ故ニ遂ニ消費  
問題ニ對シテハ近世的ノ意味ニ於テ研究スルノ機會ヲ失ツタノデアル、富國論第四篇第八章  
(Conclusion of the Mercantile system)ニ「消費ハ總テノ生産ノ唯一ナル目的デアル、故ニ當局者  
ガ生産者ノ利益ヲ考量スル場合ニハ消費者ノ利益ヲ増進スルノ必要アル範圍内ニ於テノミ之ヲ爲  
ササル可ラス」ト云ツテ居ルガ如キハ一般ノ學說トシテ消費ニ重キヲ置キタルモノ、如シト雖其  
實此ノ言ハ單ニ「まあかんちりすど」ガ生産者ヲ保護セントスル政策ノ誤レルコトヲ攻撃スルガ爲  
メニ提出シ來ツタモノデアツテ消費ノ說ハ其ノ枝葉ノ論ニ過キナイノデアル、即チ彼レハ特ニ消  
費問題トシテ財ノ功用ニ對スル關係ヨリ論シタルモノニアラザレバ、又其ノ經濟的欲望若クハ奢  
侈論ニ因縁シテ說キタルモノニアラズシテ本論ノ主題タル消費ノ學說ニハ殆ド沒交渉ノ言デアル

ト云ハチバナラム、はねゑハ此ノ語ヲ引證シテ「是レ即チすみす後ニ於ケル純乎タル英國學派ノ立場デアル」<sup>1)</sup>ナドト評シテすみす學派ハ總テ消費問題ヲ其ノ所論ノ中心點トナシタルガ如ク説キタルモコレハ明ニ失當ノ意見デアツテ我輩ハばなゑニ隨ヒすみすノ富國論中ニハ消費ニ關スル完全ナル學說ラシキモノハ皆無デアルト云ツテ差支ヘナイト信スルノデアル、加之ナラズすみすハ富國論中ニ屢々 Consumers 若クハ Consumable Goods ナル語ヲ使用シ消費者ハ「財ノ毀滅者」ニシテ消費物トハ「毀滅セラルベキ財」ノ意味ニ外ナラザルカ如ク説述シ、<sup>2)</sup>隨テ Consumption ヲ財ノ Destruction トナシ、人ヲシテ消費ソノ事ガ絕對ニ經濟的ノ惡事タルカ如ク誤解セシメタルニ依リすみす以後ニ於ケル舊派ノ學者ハ消費ヲ分類シテ生産的 Productive 又ハ不生産的 Unproductive ナド學問上甚タ不精密ナル區別ヲ立テ消費ノ眞ノ意味ヲ轉々益々不明瞭ナラシメ、遂ニ此ノ重大問題ヲ斯學ノ外ニ排斥スル者アルニ至ツタノデアル、然レトモ原來すみす其人ハ消費ヲ眼中ニ置カザル程愚蒙ノ學者ニアラズ、彼ガ富國論中ニ特ニ此ノ問題ヲ提起セザリシハ吾人ノ遺憾トスル所ナルモ、而カモ彼ハ其ノ講義錄中ニハ「財ノ消費性 Consumptibility ガ人間事業ノ大原因デア<sup>3)</sup>ル」ト斷言シ、又其ノ倫理論 Moral Sentiment ニ於テハ「まんてめゑるノ意見ヲ評シテ」奢侈 Luxury 放肆 Sensuality 及虛誇 Ostentation ハ「まんてめゑるノ意味ニ解スレバ」公共ノ利益デア<sup>4)</sup>ル何トナレバ人間ニ此等ノ事ナクンバ高尚ノ技術ハ獎勵サルルコトナク又(社會公衆ハ)事業ノ乏缺ノ爲メニ苦シマザルヲ得ズ」ト云ツテ居ル位ノコトナレバ此等ノ點ヲ總合シテ之ヲ看察スレバ彼ハ經濟上ニ於ケル事業刺激ノ要素トシテ消費ノ増進ヲ認メタルコトハ明デア<sup>4)</sup>ル、然レトモすみすガ斯ク

1) Haney's Economic thought, p. 188.

2) Macleod's Dictionary of Political Economy. Volume. I. p.p. 539-542.

3) Lectures, (Edited By Cannan) p. 199.

4) Pt. VII. Sect II.

ノ如ク消費ヲ重大視シタルハ所謂生産的消費ノミヲ云フノデアツテ其ノ實消費ノ眞ノ意味ニ於ケル「財ノ對人利用」ヲ示指スルニアラズ、單ニ生産ノ手續 Productive Process トシテノ使用ヲ是認シタルニ外ナラザルガ如シ、現ニ其ノ證據ニハ彼ハ講義録ノ他ノ部分ニ於テ「人民ガ其ノ資本ヲ或ル事業ニ放下セスシテ自ラ之ヲ消費 Spend スルトキハ國家ハ其ノ歲ノ終リニ於テ其レダケ缺乏ヲ感スルコトハ確デアル、若其人ニシテ資本ノ利息ノミヲ消費スル場合ニハ其ノ元金ハ存在シ隨テ事業ニ放下シ得ルガ故ニ敢テ少シモ損害ナシト雖モ、之ニ反シテ其ノ元金ヲ消費スレバ全部消散シテ返ヘラザルノデアル、例ヘハ人ノ父タルモノガ其子ニ一千磅ニ値ヒスルダケノ財物ヲ遺シテ死シタル後デ其子ガ之ヲ飲食ニ蕩盡シタル場合ニハ啻タ其人ガソレダケノ缺乏ヲ告クルノミナラズ社會公衆モ亦之ニ依ツテ一千磅ダケノモノヲ確カニ失ツタモノデアル、故ニ斯クノ如キ浪費ハ國家ヲシテ富饒ヨリ貧窮ニ陷ラシムル結果ヲ生スルノデアツテ、即チ此ノ一事ハ「國內ノ消費ナレバ國家ノ富饒ヲ妨ケズ」ト云フ俗説ノ誤ヲ證明スルニ足ル」云々ト論シ居ルニアラズヤ、蓋すみすハ自身ニ於テ生産的消費ト不生産的消費ノ區別コソ爲サザレ、其ノ實暗ニ此ノ區別ノ思想ヲ抱持シテ一般ニ人間ノ享樂的消費ヲ排斥シ、結局夫ノ「商品ニ對スル需用ハ勞動ノ需用ニアラズ」ト云ヘルみる一派ノ有名ナル謬見ノ基礎ヲ設定シタルニ過キナカツタノデアル。まあしやる Marshall ガ「すみすが思想上一新紀元ヲ作ルベキ大功績ヲ現ハシタルハ價值論ニシテ、價值ハ一方ニ於テハ財ヲ收得セントスル買人ノ欲望ヲ標示シ、他ノ一方ニ於テハ生産者ノ負擔スル眞ノ生産費ヲ標示シツ、之ニ依ツテ人間ノ意思ヲ測定スル方式ノ研究ニ學問的ノ性質ヲ附與シタル先驅者デア

ル」ト評シタルハすみすが交換價值ノ高低ガ財ノ需用供給ニ依ツテ支配セラルルコトヲ説明シタル點ヲ指示スルモノナルベキモ、すみすハ其ノ所謂需用ニ關ノテハ眞ニ學問的ノ研究ヲナシタルモノト云フ可ラズ、まあしやるハ何ヲ以テ斯克ノ如キ斷定ヲ下シタルヤ知ル可ラズト雖現ニすみすが常ニ需用ノ側ニ着眼シツツ更ラニ進ンテ消費說ノ根本思想ニ論及セザリシハ、少ナクトモ此ノ一點ダケハ、彼カ學問的ノ研究ニ缺如シタル適證デアルト云ハチバナラス

すみすノ消費說ハ要スルニ甚ダ不徹底ニシテ其ノ前輩ノ學說ヲ改良發達スルニ足ラザルノミナラズかんちろん其他ニ及ハサルコト頗フル遠ク、實ニ此ノ消費ニ關スル學說ダケハ彼レニ至ツテ却ツテ大ニ退歩シタルモノト云ハサル可ラズ、其後一八〇三年ニ至リぢやあん、ばぶちすと、せゑ Jean-Baptiste Say (1767-1832)ノ經濟原論<sup>2)</sup>出テテ斯學ヲ生産、分配、消費ノ三大分科ニ分チテ財ノ消費ニ關スル諸問題ヲ一類ノ下ニ研究スルノ端緒ヲ開キ、續キテせゑむす、みる James Mill. まかるく McCulloch, G. R. Rau 等皆ナ特ニ消費ヲ一分科トシテ論述スルノ例ヲ作り、其ノ形式ニ於テハ何レモ大ニ消費說ニ重キヲ置キタルニ似タリト雖其ノ實質ニ於テハすみすト更ラニ異ナル所ナキカ如シ、例ヘバせゑむノ如キハ其ノ原論ノ序文ニ於テ「すみすが消費ノ說ヲ發達セザリシハ彼レヲシテ多クノ重要ナル真理ヲ發見スルコト能ハザラシメタル所以デアル」ト明言シツツ己レ自ラ生産的消費ト不生産的消費トノ區別ヲ立テタルヲ學問上ノ大發明ノ如ク誇稱シ、其ノ消費論ノ本題ニ入ルニ及ンデハ先ツ消費ヲ以テ「利用ノ毀滅」若クハ「價值ノ毀滅」トナシ、「現在ノ享樂以外ニ何モノヲモ生産セザル消費(所謂不生産的消費)ハ之ヲ行フニ於テ消費者ニ何等ノ技能ヲ必要

1) Marshall's Principles of Economics. 2d Ed. p. 56.

2) Traite d'Economie Politique (1803).

トセサルベシ、美食ヲ食シ美服ヲ着スルニ將タ何ノ勞力何ノ才智ヲ要スルコトアラシヤ」ト云ツテ總テ人間ノ須要ニ關スル研究ハ之ヲ經濟學ノ問題外トシテ排斥シタルデアル、故ニ其實ヲ云ヘバせるノ消費論ハすみすノ意見ト其ノ根本ニ於テハ少シノ發達ヲ認ムルコト能ハザルナリ、又セいむす、みるノ如キハ其ノ原論第四篇<sup>2)</sup>ニ於テ特ニ消費ノ科目ヲ立テテ之ヲ論述スルモ彼ガ意見ハ殆ント皆すみすトせゑトヲ參酌補綴シタルモノニ過キサルノミナラズ、其ノ說ノ大部分ハ曾テまゐしやるガ指摘シタルカ如ク單ニ租稅論ニ外ナラザルノデアル、乃チせる以下ノすみす學派ニ屬スル人々ハ消費ヲ以テ斯學ノ一分科トシテ特ニ之ヲ論述スルモ、其ノ說ノ歸着スル所ハ大同小異デアツテ別ニ著ルシキ發達ヲ見サリシハ豈遺憾ノ極ニアラズヤ

附言本文ニハ消費ヲ經濟學ノ一分科トシテ別ニ篇目ニ表榜シタル先驅ハせるノ原論デアルガ如ク記シタルモきやなん Cannan  
ノ Theories of Production and Distribution = 依ッバ D. Hoileau ノ Introduction to the Study of Political Economy  
(1812)ト題スル書ハせるノ原論ノ第二版ガ發行(一八一四)サル三年前(一八一二)ニ既ニ消費ヲ以テ斯學ノ四大分科ノ中ニ加ヘテ居ル様デアル、然ラバ此ノばいりゅうト云フ無名ノ學者ガ消費ヲ分科ノ一トシタル率先者ナルカ如クナレトモ、せるノ原論ノ初版ハ一八〇三年デアルカラ彼ガ此ノ初版ニ於テ既ニ De la Consommation des Richesses ノ篇目ヲ設ケテ居ツタトスレバ勿論せるガ率先者デアル、而シテ我輩ハ今手近ニせるノ原論ノ初版ヲ一見スルノ便利ヲ有セザルヲ以テ其ノ如何ヲ詳ニスルコト能ハサルモ、せるノ原論ガ第二版ニ於テ形體、實質共ニ多大ノ改作アリタルコトハ學界ニ傳説スル所ニシテ、殊ニきやなんハせるノ分科ノ目ヲ列舉シテ下注ニ Is (1800) is differently divided ト云フコトヲ記シ初版ノ篇目ノ異ナツテ居ルコトヲ明言シテ居ルノデアル、きやなんガ所謂ル異ナツタ分ケ方ガシテアルトハ甚ダ不明瞭デアツテ初版ニモ消費ノ篇目ガアツタノカ無ナカツタノカ判然セザレドモきやなんノ前後ノ文ヲ見レバ初版ニハ消費ノ目ハナカツタ様ニモ思ハルノデアル、然レドモせるノ原論ノ附題 Subtitle ニハ現ニ財ノ形成(生産)分配及消費ノ三目ヲ表榜シアツテ該書ノ全名ハ Traite D'Economie

1) Treatise (English Translation from the 4 th Edition) p. 392.

2) Elements of Political Economy (1821)

Politique, au Simple Exposition de la manière dont Se Forment, Se Distribuent, et Se Consument les Richesses. 1st. ed. 1803. デアルコレハきやなん自ラ其著書ノ索引中ニ記セルノミナラズまからつくノ經濟書解題等皆コノ通りニ記ルシアレバ初版ヨリ既ニ此ノ題名ヲ附シアツタモノトスレバ三科目ノ分チハ其時ヨリ之レアツタモノデ第二版ヨリ始マツタモノニアラザルカトモ思ハルノデアル、ソレトモ此ノ附題ハ第二版ヨリ新タニ附加シタルモノナルチ、きやなん、まからつく等皆深ク注意セズシテ初版ニモアリタルカ如ク記シタルモノナルカ、何レニシテモ初版サヘ手元ニアレハ直ニ分明スベキコトナレトモ之レナキハ遺憾デアアル

十九世紀初代ノ正統派經濟學者中學理ニ於テ最大ノ貢獻ヲナシタルリかあど Ricardo ハ消費ニ關シテハ別ニ新シキ學說アルヲ聞カズ、最近米國しかび大學ノせしる、しる、のうすカ發表シタル論文<sup>1)</sup>中ニ「リかあどガ後世ノ學者フシテ全ク消費說ヲ不問ニ措カシムル様ニ誘キタルハ彼カ分配ト交換トニ過大ノ重キヲ置キタルカ爲メナリ」ト評シタルハ甚タ奇怪ノ言デアツテ消費說ノ財ノ交換問題ニ至大ノ關係アルハ勿論ノコトナルノミナラズ、其ノ分配問題ニモ離ル可ラザル關係アルコトハ夫ノしすもんじ Simondig 特ニ此ノ點ヨリ消費ヲ重大視シタル一事實ニ徴シテモ明デア<sup>2)</sup>ル、加之ナラズ正統派經濟學者ヲシテ消費ノ研究ヲ怠ラシメタルハ必スシモリかあどノ責任ニ歸スベカラズ、あだむ、すみす及せゑ等ガ消費ヲ「價值ノ毀滅」トナシテ財ノ生産ニ反對ノ行爲即チ經濟學ノ目的以外ノコトト心得タル過チニ歸因スルモノデアル、故ニリかあどガ交換問題若クハ分配問題ヨリ宜シク深ク消費論ニ進ムベクシテ進マザリシハ、全ク其ノ先輩ノ舊思想ヲ脱スルコト能ハサリシ結果ナルベシ

正統派經濟學者ノ中デ比較的大ニ消費問題ニ注目シテ不完全ナガラ之ヲ論述シタルモノハなるぞ

1) Litirature of Political Economy p. 21. 但シ本書ニハ初版ノ出版年ヲ 1802 ト記セリ 2ハ3ノ誤ナルカ

2) Cecil, c. North, Sociological implications of Ricardo's Economics

3) Ibid. p. 30.

4) まくらうどカ其ノ經濟字典ニ於テ Ricardo says nothing about Consumption ト云ヒシハ聊カ遇言デアルト思惟ス



すデアハ、彼カ經濟原論ハ別ニ新説アルニアラザレバ是迄學界ニ餘リ重セラレズ、隨テ多ク讀マレザリシト雖、其ノ消費ヲ論スルノ一點ニ至リテハ確カニ一頭地ヲ拔クノ思ナキニアラズ、乃チまるざるハ本書ニ於テ「商品ノ消費ハ需用ヲ減少シ商品ノ生産ハ之ヲ増加ス」ト云ヘルせざる得意ノ説ヲ排斥シテ全然根據ナキ謬説トナシ、斯クノ如キハ供給需用ヲ支配スル大主義ニ抵牾スルモノナリト斷言シテ明カニ反對ノ意ヲ表シ、夫レヨリ進ンデせざる徒ガ商品ノ生産ハ常ニ生産ソノモノニ依ツテ均衡ヲ保タルルカ如ク思惟シ、單ニ商品ノ數字上ノ量數ヲ計較シテ如何ニ生産ヲ増加スルトモ其ノ相互ノ間ニ於ケル關係的ノ價值ヲ失フコト之レナシト斷定シタルハ妄説ノ甚タシキモノデアツテ、コレハ原來消費者ノ數ト其ノ須要ノ多寡トニ對シテ生産物ノ計較ヲ爲ササルノ過チニ歸因スルモノニシテ、せざる説ヲ是認スル人々ハ、例ヘバ一般ニ極端ナル節儉ノ行ニ依ツテ須要ヲ減少スルト同時ニ必ス生産ノ過剩ヲ生シ生産ノ過剩ハ價格ノ下落ヲ招キ價格ノ下落ハ不景氣ノ原因トナツテ生産事業ノ衰退ヲ來スト云フコト知ラザルモノデアルト駁撃シテ消費ニ基ク實效需用 [Effectual demand] ノ増進ヲ必要ナリトシ、尙ホ繰リ返ヘシテ「永久ニ消費ノ減少ヲ意味スルカ如キ財ノ蓄積ハ其ノ功用ト價值トヲ減少セシメ遂ニ財ノ財ノ性質ヲ失ハシムルニ至ルベシ」ト云ヒ又「財ヲ永久ニ増殖セント欲シ、收入ヲ資本ニ轉化センコトヲ持續シテ（消費ヲ節約スルノ意）其之ニ由ツテ増加シタル資本ノ生産ニ對スル實效需用ヲ顧ミザルハ宛モ勞力ノ需用ナク又生計ノ維持費ヲ増加セズシテ、濫リニ結婚ヲ獎勵シ生兒ノ多カラシムコトヲ欲スルト同シク、全然無用無益ノコトヲ勉ムルモノデアル」ト云ヘルガ如キハ皆大ニ聞クベキノ言デアル、然レモ

1) Principles of Political Economy (1820)  
 2) Ibid, 2d. Ed. p. 315.  
 3) Ibid, pp. 318-319.  
 4) Ibid, pp. 326-327.  
 5) Ibid, p. 330.

まるざすハ其ノ消費論ニ入ルノ初メニ於テ「資本ノ永久ノ増加ナシニハ財ノ永久ノ増殖ハ出來得ベカラズ」ト云フコトヲ前提シテ、夫ノろろだである。Lauderdale 侯ガ資本ノ蓄積即チ收入ヲ資本ニ轉化スルコトヨリ尙他ニ財ノ増殖ヲ計ルノ途アルガ如ク認メ居ルハ自分ノ同意シ難キ所ナリト故サラニ斷ハリアルモ、我輩ノ推斷ニ依レバまるざすノ消費論ハろろだであるニ負フ所少ナカラズシテ、而カモ其ノ説ク所ハ後者ニ比スレバ却ツテ數籌ヲ輸スルノ憾ナキニアラザルカ如シ、畢竟スル所まるざすノ消費論ハ比較的詳細ニシテ實際ノ事實ニ近カルベキモ學說トシテノ根本思想ハ全ク正統派ノ舊套ヲ脱スルコト能ハス、例ヘバセカ生産ノ限域ヲ列舉シタル中ニ人間ノ須要ノ減少ヲ算入シテ此ノ須要ヲ超ヘテ生産ノ行フ可ラサルコトヲ認メ、又リかあどガ進歩シタル國ニ於テ財ノ蓄積 Saving ラ極端ニ遂行スルハ却テ貧窮ノ基ナルコトヲ斷言シタルガ如キハ皆是レまるざすノ意見ニ異ナラサルノデアル、まるざすヲシテ今一步消費説ノ堂奥ニ進入セシメ、ろろだである侯ノ特色トスル所ヲ捕拿シ來ツテ充分ニ之ヲ修補スルノ勞ヲ取ラシメタランニハ其ノ學說上ニ貢獻スルコト更ラニ多大ナルベキヲ疑ハザルノデアル

ろろだである侯 James, Maitland, 8th Earl of Lauderdale (1759-1839) ハ世人ノ知ル如ク正統派經濟學ニ向テ最先ノ破裂彈ヲ投シタル異說者ノ一人デアツテ、彼ハ斯學ノアラユル重要問題ニ就キ頗ブル嶄新卓拔ノ識見ヲ現ハシタレドモ、他ハ且ラク措キ、本論ノ主題タル消費説ニ關シテハ特ニ大ニ見ルベキモノアツテ、眞ニ學問的ノ研究ハ此人ヨリ始リタリト云フモ過言ニアサルガ如シ、乃チ次回ニ於テ其説ノ大略ヲ紹介セントス